鳥羽山城（浜松市天竜区二俣町鹿島）（鳥羽山公園）

　鳥羽山城跡は、公園として整備され、市民の憩いの場となっています。

　鳥羽山城は、天正３年（１５７５年）に徳川家康が武田方の二俣城を奪回するために、ここを本陣としました。

　その後、整備拡張され、曲輪・虎口・枡形門・土塁・排水溝・建物の礎石・枯山水の庭園・堀切など多くの遺構が残されています。堀尾氏領有時代（１５９０－１６００年）に土塁や石垣がめぐらされ、大手道は石垣で荘厳化されました。

　こうした特徴から、鳥羽山城は、迎客機能を備えた領主の居館と推定されています。

現地看板より

　鳥羽山城

　徳川家康が二俣城を攻める際に付城とした鳥羽山城も庭園など多くの遺構が残っている。この城については史料に天正 3 年 6 月に築城したという記録しか残っておらず、発掘調査もなされていなかった。しかし地元の郷土史研究家である鈴木喜代治が一定規模の城郭があったものと考え、昭和 26 年（1951 年）から 20 数年にわたって単独で発掘を行った結果、大規模な遺構の存在が明らかになり、昭和 49 年（1974 年）から翌年にかけて、天竜市教育委員会による大規模な発掘調査が行われた。これにより、二俣城と同規模、またはそれ以上の城郭があったことが判明し、各曲輪・枡形門跡・庭園・石垣・井戸・排水溝などの遺構が発掘された。特に庭園については、立石などから安土桃山時代の形式で枯山水の庭園であると考えられる。また、染付・天目茶碗・鉄釉仏飯器なども発見されている。これらのことから、家康の二俣城攻略の後には、鳥羽山城は二俣城の一部として機能したと考えられているが、一方で石垣を含んだ大規模な築城は堀尾氏入封後のものであるとの説もある。

なお、鳥羽山城跡は現在は公園として整備され、市民の憩いの場となっている。

Wikipedia による